



第398号 発行所 町会 山部 黒森山 編集 郡山市喜田山部 あだたら編

編集部連絡先 二本松市郡内1-5-15 0243(22) 4245 Fax可 渡辺 正

新年あけましておめでとーございます

会員の皆様にあけましてお健やかに新年をお迎えのことと思います。

恐らくこの会報が発行される頃にも新型株の報道などで暗い気持ちになるかと心配しておりますが一日も早く終息して、以前のような山行ができるようになることを祈るばかりです。

昨年も会員の皆様にご協力頂き登山道整備をはじめ多くの会山行を実施することができました。大変、感謝申し上げます。新しい生活様式というものにも多少は慣れてきてますが、まだまだ、不自由な事が多く心から解放される事が、必ず来ると信じて今はビバークする時なのかと考えます。

今年も、皆様のご協力により会の運営をしていければと思っておりますので何卒、ご協力をお願い申し上げます。

二〇二二(令和四)年元日
あだたら山の会会長

十二月十六日(木)

臨時)十二月山行・黒森山

報告

山の会、今年最後の山行は塩沢黒森山になった。十月十六日、鉄扇砂防公園に参加メンバー四名が集まり、一台に分乗し九時出発。

登山口までは細い道を進んで行く、人家が数件あったが今は空き家が多いとの事、戦後開拓で入植した人が住んでいたようだ。行

き止まりまで進んだ所が登山口、黒森山の標識がある。靴を履いて準備していると、〇〇さんが到着。これで今日の山行メンバー全員が揃う。この辺は猪が多いと事で、登山口に捕獲用のワナが仕掛けてあって、猪に会わないことを願いながら、



午前11時、山頂で乾杯

落ち葉を踏みしめながら登山開始。(標高四四六m、九時十分)。約三十分歩いたところで(標高五三〇m)分岐を左側に行く、〇〇さんが丹念に目印の赤布取り付けている。そこから少し下って行ってエビスサーキットの脇に出る。今日はサーキット場が休んで爆音が聞けず、静かだ良かった。又はドリフト走行が見られないので、残念との話で盛り上がる。サーキットに沿って登山道が伸びており、先に進むと右側に沢が流れてい

る、灌漑用水で人工的に作られたそうだが、かなりの水量で深く浸食されたことがわかる。サーキット脇から離れて沢に掛けられた丸木橋を渡る。ここからは国有林との境を登山道が続いていて山頂直下から左に巻くように山頂まで繋がっている。ここで、〇〇さんが直登を提案。それぞれ木や枝につかまりながら転がり落ちていかないうち登っていく。ようやく山頂到着標高七三二m、十一時。山頂から西側が開けており安

達太良連峰がよく見えるが、残念なことに山頂付近は雲でおおわれていて絶景とまではいかなかった。目の前の山(標高七六〇m)が国土地理院地図上の黒森山との事。少し景色を眺めた後、早いのが昼飯にする。〇〇さんが五人分のノンアルコールビール持参してきた。〇〇さんに感謝して皆で乾杯。飯を食べながら健康の話、老後の話、家族の話、昔話など話がつきない。約五十分休憩した後、下山開始。下りは登山道下ることになった。登山道脇に石積みがあり江戸時代、二本松藩と天領との境であったとの事。(〇〇さんより)。

しばらく下ってから左側に折れ、船石?(〇〇さんがそう呼んでいる)からさらに左へ山頂直下をトラバースして、直登を開始した地点にもどる。国有林にそって登山道を下ったところで、〇〇さんが登山道を外れた。我々を手招きしたので行ってみると、なんと熊の糞が二か所に、熊のトイレ場を確認し登山道に戻る。〇〇さんがしきりに上を見ながら歩いている。カラスの果があるとのこと。確かに木の上に果があった。それそれ視点が違って面白い。〇〇さんは赤い実を付けた植物に興味を示していた。どんぐりのなる木も、ブナ、ミズナラ、ユナラなどあり、山の植生を知るのも楽しい。いろいろ話をしているうちに登山口に無事到着。(十三時)。参加メンバーは、〇〇さん、〇〇さん、〇〇さん、5G(爺)による楽しい山行で参加された皆様お疲れ様でした。



黒森山、GPS軌跡

安達町、えびす高、黒森山、GPS軌跡

追悼文

□□□□さんを偲んで

コロナ禍や悪天候の為二年続けて延期になった山の会の 吾妻連邦縦走小屋泊り山行が無事に終わり、その余韻に浸っていた八月中旬に同行した□□□□さんから長文のメールが届きました。約束していた北アの登山に行けなくなった旨の詫言び状とその理由が細かに記され、右目の状態が思わしくなく、治療が難しく、やがては失明に至る重篤な状態との内容に愕然として言葉も失ってしまいました。急ぎ、ありきたりの言葉の羅列でしたが励ましの返信を聞いたもののその後の様子も心配でしたが連絡すると何か恐ろしいことが待っていきそうな気がして怖くてできませんでした。そして十月、突然の訃報。この間の□□□□さんの心境を察すると、ビビッと、結局何にもしなかった己が本当に情けなく、悔やんでも悔やみきれない思いです。コロナ禍でお見送りやお悔やみを申し上げるのも叶わなかったのは、とても残念でなりません。

□□□□さんの入会記録を見ると平成十五年で、丁度その年に山の会創立四十五周年記念登山・八甲田と岩木山登山が実施され□□□□さんも参加、私にとっても大変楽しいことだらけの二泊三日の記念登山でした。それからの長いお付き合いです。仕事の都合で他県に移ってからも百名山や大きな山行には度々参加され共に急坂をあえいで汗を流し、おいしい酒を飲み交わしました。近年では御嶽山、電車を乗り継いで木曽福島で合流、大災害を目の当たりにした貴重な経験の三日間でした。そして八月の吾妻縦走が最後の機会になってしまふなんて未だに全く信じられません。手の届かない処に旅立ってしまった□□□□さんですが、私達の胸にはしっかりと生き続けています。貴方のことだ、きつと暗くて狭苦しい堂の中なんかにはじっとしているはずがなく、あちこちの山々の峰々を飛び回っているに違いありません。

必ず逢いに行きます、それまでしっかりと下見、お願いしておきます。キラ星のごとく楽しく掛替えの無い数々の思い出、君に心からありがとう。



2004-09-26 秋の僧悟台登山道整備



2004-07-23 45周年記念 八甲田・岩木山



2013-07-29 二本松市久保丁「炭火炙り角」で反省会



2019-09-14 御嶽山頂

今年も二十三日の勤労感謝の日には装備点検が行われた。装備品置かして頂いている、□□□□さん宅の倉庫で、備品の紛失などの無いことを、総会資料の所蔵品一覧表を元に確認する。今年も欠品などはなく、無事に点検を終えることができ



た。装備品どんどん新しい機能性能の品物が現れる。現在の装備品でガス燃料のランタンなど、現状にそぐわない装備品もある。こういったもの欲しい人に渡すなどのこと考えなければならぬ時期かも知れない。

写真集

□□□□さんを偲んで

十一月二十三日(火) 装備点検

報告 編集部

十二月五日(日) (個人山行) 五十人山

報告 □□□□



会山行、十二月は花塚山と木幡山。私、今年三月と八月に行っていたので個人山行で五十人山に。天気も良く八時出発。国道四五九号、地方道、県道五〇号と登山口の「管ノ又」へ。せせらぎ荘まで行った所、登山道入口の駐車場迄の道が通行止。やむなく「湯ノ平」登山口より入山。点在する部落を通り林道へ。杉林の中に三々四台止められる駐車場。案内板にある林道を進み、大きなカーブの所から山道に入る。綺麗に刈り

私われ歩き易く迷う所もない。木の葉の上には少し雪もあり、あちこちに猪が埋おこした跡がある。山頂近くには一々二ツの雪で木の葉も隠れ白くなっていた。今年初めの雪道歩き。坂上田村麻呂を祀る祠が五十人石の上にある山頂に着く。眼下にはツツジや桜のある広場、春の花の時期など「大の字」に成り休みたくなる様だ。アンテナの立つ南峰が山頂で(八六三)二等三角点もあり、東に太平洋、西

に安達太良・吾妻山・阿武隈山系の山々を楽しめる。五く六人の登山者と逢う。茨城県から来た登山者とも会う。軽く昼食を済ませ、「管ノ又」登山口へ下山。春の紅葉の時や秋の紅葉な



午前9時6分、出発時、参加者2名写っていない

十一月十八日(木) 僧悟台登山道、階段修理

報告 編集部

今年最後となる登山道整備は安達太良山 僧悟台登山道で実施された。馬返しから、湯川を渡り、僧悟台に登り、笹平に出る。三時間程の登山道。長い登山道だが、初夏にはハクサンシ



土嚢袋作り



13時54分、階段工事中



14時47分、倒木処理



14時41分、2カ所目の工事



15時39分、作業終了解散

階段杭を番線で固定し、土嚢を置くという、新しい作り方。土砂を土嚢袋に入れて、流れる落ちるのを防ぎ、階段も長持ちさせることができる。今迄の階段の上にも新しく階段設置した。今迄の階段の長さも二倍程に伸ばした。今回の場所は、当会も出勤したが、今月上旬の夫婦の一時遭難で、奥さんが足を挫いた場所(会報先月号)。今後は安全に登山を楽しめる。当日は水場下のもう一カ所の階段にも同様の工事を行い、また登山道に被さった倒木も処理した。□□さん夫婦にも参加頂いて、九名が参加した。

◆新しい年が始まりました。災害のない、穏やかな年でありませうように。◆個人山行の記事下さい、メールだと有り難いのですが、手書きも歓迎、FAXも受信できます。

編集後記 三九八号